

意見提出者:山田議長、橋本副議長、麻生委員、井澤委員、小俣委員
金指委員、栗山委員、中谷委員、中野委員、松島委員

【議事】

1 議決事項

(1) 令和4年度海老名市社会教育関係団体への補助金について

承認10・不承認0

(委員) 新型コロナウイルス感染拡大が中々収まらない情勢で、地域や学校での活動や行事の開催の制限があり、今までと違った方法や行動を模索していく必要があると思います。今までの活動の良さを引継ぎ、新しい状況を加味していく必要があると思います。

(委員) いずれの団体等承認します。

(委員) 一つ一つの活動の内容を読ませていただきました。どの活動も地域のコミュニティを作るうえで、重要だと思いました。

2 報告事項

(1) 社会教育計画について

(委員) 基本目標及び重点テーマ共にとても分かりやすく良いと思います。具体的数値目標の達成に向け、実績が積み重なっていくことを期待します。

(委員) 「えびなっ子ふれあいフェスタ」について、今年度開催できなかった場合、ご提案の活動紹介の映像をHPで公開することに賛成いたします。

(委員) R3年度の「えびなっ子いきいきシンポジウム」は中止になりました。R4年度のテーマは「自分でできることを進んでできる子」です。よく相手の話を聞き、相手を知る判断をし、行動する。そして、周りの大人たちが自らも相手の立場に立って考え、他人とともに協調し、思いやる環境づくりの一端を背負う活動をしたいと思います。

(委員) 「社会教育デー」は「えびなっ子ふれあいフェスタ」と良い名前が付きました。ゲーム性のある参加型のイベントを増やすとより児童の参加が増えると思います。

(委員) 新型コロナウイルス感染症の影響で計画通りに進んでいませんが、縦長の海老名の地形のため、まずは中学校区単位等で実施したり、オンラインでできたりすることに着手してはいかがでしょうか。

(委員) 令和3年度が新型コロナウイルスまん延防止のため、延期から中止となり、とても残念でしたが、新型コロナウイルスの低年齢への感染が増加したための、苦渋の決断だったと思います。令和3年度の資料を元に、各関係団体と連携を取り、令和4年度に向けたたいです。

(委員) 「えびなっ子いきいきシンポジウム」と「えびなっ子ふれあいフェスタ」の規模

や開催時期の見直しが必要だと思います。また、コロナ禍で活動そのものが制限され、十分な活動ができないために広報や募集ができず、各団体が衰退していったのか心配です。

(委員) 今年度においても、シンポジウムが開催できていたのなら、着実に6年計画を進めることができ、それを実感できたと思います。「えびなっ子ふれあいフェスタ」についても市民が気軽に各団体を見られる機会だったので残念です。差が出てしましますが、団体ごとの活動の様子を年間通して配信できる仕組みが構築できればと思います。

(委員) 今年度はフェスタが中止になり、大変残念ではありますが、仕方なかったと思います。継続することで、少しずつ、社会教育計画や取り組みが広がっていき、さまざまな世代の交流の場、子どもが何かを始めるきっかけになるとと思いますので、引き続き関わっていただけたら幸いです。

(委員) 今年度、限られた中での活動であったと思いますが、現状のコロナを踏まえたうえで、どのように計画を進めていけるかが重要だなと思いました。

(2) 海老名市立図書館に関するアンケート結果について

(委員) アンケート結果を踏まえ、さらなる充実が図れることを期待します。

(委員) 毎年度、詳細なアンケート結果を報告していただき、ありがとうございます。両図書館共に、市民の皆様から大いに満足され、活用されていることがよく理解できました。

(委員) 中央・有馬図書館とも「大いに満足」「満足」が約8割です。すばらしいと思います。また、要望としてのパソコン作業や友人や知人が集まって活動やワークショップができる場が欲しいとあるのは、今の社会状況が、反映しているのかなと思っています。色々と利用者が利用するために、中央・有馬図書館の館長はじめとするスタッフの皆様のご努力に敬意を表します。

(委員) 学習スペースを増やしたのは良いことだと思います。雰囲気や学習意欲が増すと思います。今後は電子化をすすめ、所蔵数を減らさずに席を増やしていただきたいです。有馬図書館のプレゼンテーションは毎回大変すばらしかったです。

(委員) 中央図書館は駐車場有料化になるため、今後は使用時考えてしまうかもしれません。両図書館とも満足以上の評価を得ているため、質の低下にならないように維持していただきたい。

(委員) コロナ禍の中、大変苦慮されていると思いますが、各図書館のアンケート結果が前年より上がっていること、利用者の満足率と改善点に対応されていることに評価します。又、少人数からの不満・要望に対しては、今後利用者の思いに近づける対策を取られるよう期待します。

(委員) 両館とも好評な結果となる図書館にさせていただいて心より感謝いたします。一方で、自家用車での来館が多く、駐車場の有料化に反対という声も少なくないと感じました。“気軽による”ことができない場所にならないよう、また返却だけのための路上駐車がないように願います。有馬図書館においては、地元寄り添っている感じが伝わり、日ごろからスタッフさんが尽力されていることに

感謝いたします。

(委員) いつも、色々な工夫をされて、コロナ禍でもイベントを行い、楽しい企画を実施しているのは本当にすごいことだと思います。今まで以上に、子どもも大人も楽しく新しい刺激がもらえる場所になっていくことを望みます。

(委員) 2つの図書館、各々の利用者に対して寄り添った内容はとても勉強になりました。どちらもカラーは違いますが、市民の生活の中にあるものをつくられようとしているのは、共通しているなと感じました。

(3) 第四次海老名市子ども読書活動推進計画（案）について

(委員) 以前、資料を拝見した際、キャッチフレーズの「みつけた！tomobon」のコンセプト説明が不十分ではないかと意見を述べさせていただいたが、今回わかりやすい説明がなされており、大変良いと感じました。

(委員) すでに取り組みられています、小中学校の朝読を今後とも続けて頂き、読書の習慣化を身に付けてもらうことが必要と思います。

(委員) スマホ等の多くの情報手段がある今日に、読書は、子ども達が最初に目にする初めての情報ですが、保護者を始めとする大人たちも読書をしないと話を聞きます。幼い頃から、絵本を始め、読書をする環境作りが必要と思います。新聞を読む家庭が少ないと聞きます。文字に馴染む環境と読んで知り、考え、想像し、思う心を養う必要があると思っています。

(委員) 盛りだくさんの計画で果たしてどれだけ達成できるのか、浅く広く知識を与えられるのかと期待大です。

(委員) 読書環境が変わってきている現在ですが、令和4年4月からの「子ども読書活動推進計画（案）」は素晴らしいと思います。乳児、幼児から年齢に合った本と出会い、手に取った本のぬくもりを感じられる子どもから成人へ育ててほしいです。ある小学校では、保護者が交代で、10分間本の読み聞かせをすると聞きました。想像力から本を手取るきっかけになると良いです。

(委員) 本を読むことは大切だと思います。逆に電子書籍については、学校や誰かがわざわざ触れる必要はないと思います。

(委員) 幼児のうちから書籍に触れ合える体験イベントとしての図書館の活動は非常に好感を覚えました。また、電子図書館は非常に楽しみです。

(委員) 読書を推進するのは、子どもたちの知識・興味につながるので、どんどん進めていただきたいです。読んだ後、好きな本を人に話す、プレゼン資料を作ってみるなど、+αの学びの体験をさせるのもよいのでは、と思います。

(委員) 本を通した子どもの成長はとても大きいと思います。様々な団体や社会教育と一緒に進めても良いのではないかと思います。